

口は健康のもと Vol.161

あなたの飲み込みは、本当に大丈夫ですか？

早目の健診が大事

医療先進国である日本において、死亡原因の第3位は肺炎で死亡率の10%になります。高齢者に絞ると第1位となり割合は33%にも上りますが、それは主に誤嚥性肺炎によるものです。一方、不慮の事故による死亡は全体の5%で、その多くは窒息です。お正月のお餅だけではなく、日常の食事中にも起きています。ご存知でしたか？ 「今は大丈夫！」と過信していませんか？

高齢になれば多少なりとも体力が衰えていきます。寝たきりになれば尚更衰えの進行は早く、一度衰えてしまっただけから元に戻すまでには、並大抵ではない努力と時間が必要となります。身体だけではなく、飲食に使う筋肉が衰えることで誤嚥や窒息へと繋がります。すなわち、日頃からの早期発見、早期予防が大切になってきます。いつまでも健康で形あるご飯を食べて行きましょう。

私たち医療従事者は治療だけでなく、国民の健康と予防を使命に携わっております。現在医療の観点は、治療よりも予防を重要視しています。これを機に飲み込みの健診を受けてみてはいかがでしょうか。

摂食嚥下障害は高齢者だけでなく、小児の先天性疾患、頭頸部腫瘍、脳血管障害、神経筋疾患、内科的疾患などでも起こります。お心当たりの症状があれば、ぜひご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院
口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション外来
准教授 鈴木 史彦

